

氏名	田原 昭 仁
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3764号
学位授与の日付	平成14年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Immunohistochemical Localization of Histamine N -Methyltransferase in Guinea Pig Tissues (モルモット組織におけるヒスタミンN-メチル基転移酵素の免疫組 織化学的局在)
論文審査委員	教授 佐々木 順造 教授 白鳥 康史 教授 谷崎 克郎

学位論文内容の要旨

ヒスタミンは炎症反応、免疫応答、胃酸分泌の重要なメディエーターである。ヒスタミン N-メチル基転移酵素 (HMT) は、組織におけるヒスタミンの不活化に重要な役割を果たすことが推定されているが、HMT の組織細胞局在はよく解っていない。本研究では、ウシ HMT に対するウサギポリクロナール抗体を用いて、モルモット組織における HMT の免疫組織化学的局在について調べた。モルモット HMT に対する抗体の特異性はウエスタンブロッティングおよびモルモット精製 HMT での吸収血清で確認した。強い HMT 様免疫反応 (HMT-LI) が消化管の上皮細胞に認められ、特に胃体部、十二指腸、空腸で強い陽性反応が見られた。胆嚢の円柱上皮細胞も強い陽性を示した。胃から腸へかけての殆ど全ての筋層間神経叢が染色されたが、粘膜下神経叢は染色されなかった。さらに気管の線毛細胞や膀胱の移行上皮に強い陽性細胞が見られた。ランゲルハンス島、皮膚上皮細胞、肺胞細胞、腎尿細管、精細管の上皮に中等度の陽性細胞が認められた。以上のような広範な HMT-LI の分布は、異なる組織におけるヒスタミンの種々の役割を示唆している。

論文審査結果の要旨

本研究は、炎症反応、免疫応答、胃酸分泌などの重要なメディエーターであるヒスタミンを不活化する酵素のヒスタミン N-メチル基転移酵素 (HMT) のモルモット組織における組織内局在を、ウシ HMT に対するウサギポリクロナール抗体を用いて免疫組織化学的に研究したものである。消化管の上皮細胞、筋層間神経叢、気管上皮の線毛細胞、膀胱の移行上皮ほか、ランゲルハンス島、皮膚上皮細胞、肺胞細胞、腎尿細管など、種々の組織において HMT 陽性細胞を確認しており、異なる組織におけるヒスタミンの種々の役割について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。